

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2019年 2月20日

第 420 号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲 松 義 人

印刷所 アド・アール株式会社



学校からの下校風景「ただいまー」「おかえりー」

子どもが犠牲になる痛ましい事件があとを絶たない。聖書は「子供たちを来させなさい。（中略）天の国はこのような者たちのものである（マタイ19・14）」とイエスの言葉を伝えている。聖書を少し読んだことのある人は多分ご存じの言葉だろう。子どもたちを受け入れる。温かく育むことの大切さは多くの人が認識している。虐待してしまう人たちの中にも頭では分かっているという人が少なくないと思う。しかし、実際のところ、私たちは心から子どもたちの言葉に耳を傾け、子どもたちの願いを受けとめ、子どもたちの心が満たされるように接しているだろうか？と反省させられる。「子どもは自分勝手だから指導しなければならぬ。しつけしなければならぬ。」と反論する方がいらつしやるかも知れない。それなら大人は自分勝手ではないだろうか。大人の行動、自分の行動はいつも統制がとれているだろうか。子どもたちの命を育むことを、誰でも一人で抱え込むのは困難だと思う。子どもたち、いや人はそれぞれみな個性である。それぞれの違いを認め合い、赦し合い、支え合って生きていかなければならない。子どもたちを真ん中にしてつながる地域社会をつくりたい。愛されて育つ子どもたちの澄んだ瞳は、輝くべき命の原点ではないだろうか。すべての人が輝くところ、それが福祉のめざす天の国ではないだろうか。

稲松義人

テーマ「つなぐ」

学齢期の育ちと進路をつなぐ

子どもたちは様々な事由で三方原スクエア児童部に入所してきます。今回は、児童部において実践されている家庭や児童相談所・特別支援学校等の関係機関とのつながり、また退所後の進路先とのつながりについてお話を聞きました。

インタビュー（法人広報委員）

小羊デイケアホーム 高林 重誓

「障害児入所施設の現状と連携」

高林…今日はお忙しい中お時間いただきありがとうございます。始めに出水施設長に伺います。三方原スクエア児童部の最近の入所児童の状況をお聞かせください。

出水…施設の定員は20名ですが、現在入所している子ども的人数は16名です。最近では他の障害児入所施設でも定員に満たない施設が多いようですが、放課後等デイサービスなど通所の事業所が増えていることも影響していると思われます。入所となる理由は様々ですが、重度の障がいで行動的な課題のある子や、障がいはいくつでも親子関係が構築されず情緒的な課題のある子といったタイプに大きく分かれています。入所した時は落ち着いた様子を見せていても、生活に慣れてきた頃に様々な表れを見せる子どもが多いと思います。

高林…では、児童発達支援管理責任者の小林さんにお聞きます。入所時に児童相談所をはじめ、相談支援事業所、学校や関係福祉施設などとはどのような連携を図っているのでしょうか？

小林…入所する子ども達の状況や抱えている課題は様々ですが、どの子ども新しい生活への不安や家族と離れる寂しさを感じながら入所してきます。その中で子どもたちが少しでも良いスタートを切れるように、事前に児童相談所や学校、医療機関など各関係機関との情報交換を重ねながら子どもの特徴や特性、家庭の状況などを理解していきますが、そういった情報の共有がその後の関わりの中で積み上げられてゆく関係性や支援の土台になってゆくと考えます。また子ども達は成長や様々な状況によって様子も変化するので、各関係機関とは入所後も連携を取り、定期的な支援会議のみならず、日常的にも報告や相談ができるような関係性を目指しています。



出水 蔵生さん(施設長)

出水…入所時の情報共有も大切ですが、その後の協議を継続して行うことは施設の役割としてもとても重要です。施設での子どもへの支援だけでなく、家族との交流を重ねながら家庭に戻るための準備と確認を行ったり、卒業後の進路についても考えなくてはなりません。課題があっても入所はしますが、入所する事が解決ではなく、その先に向けて改善すべき目的をしつかり持つこと、その目的に向かって関係機関同士が同じ方向性を持ちながら関わり、また情報を共有する必要があると思います。特に近年入所となる子どもや家庭の状況は複雑でデリケートでもあるので、細かい情報の共有や協議の積み重ねはとても大切です。

「小規模ユニットケア」

高林…三方原スクエアは、全国的にも少ない児童施設のユニットケアを実践しています。少人数での支援のメリットを聞かせてください。

出水…「ユニット」のイメージは家庭・家族です。昔の入所施設は利用者の人数も多くお互いの影響も大きかったですが、入所になったとしてもやはり子どもにとっては家庭的な環境で落ち着いて過ごしながら成長してゆくことが必要です。特に情緒的な課題のある子どもにとっては、刺激の少ない環境で職員との関係を深めることが重要です。ユニットの人数も5名程度なので職員も細かい様子に気づきやすく、関わりも個別的な支援になるため、子どもも安心感が得られると思います。

高林…そうなんですね。しかし実践の中ではご苦労も多いと思いますが、子ども達の育ちを支える視点で、どのような点を重視していますか？

小林…ユニットケアの少人数での生活ですが、もちろん相性や時期的な特徴もあるため、子ども同士が同じユニットになってみたら合わなかったということは度々あります。しかしそれは子どもの新たな一面を知ったということ



小林 亜記子さん(児童発達支援管理者)

出水…基本的にはまずご家族の意思を確認することから始まります。ただ保護者はその家庭も複雑な課題を抱え

高林…そういった視点で子どもの育ちを支えながら、日々成長していくんですね。児童福祉法の改定に伴い、基本的に18歳になったら施設を退所し、次のステージに進むことになったのですが、退所後の進路はどのような進め方をされるのでしょうか。

【子どもの将来に向けて】

でもあり、職員がそれをどう捉えるかで子どもの課題や成長にも繋がってゆくとあります。もちろんユニットの変更も視野に入れますが、今この状況が子ども達の情緒にどう影響するか、そしてどう将来に繋がるかということを考えながら、その都度検討しています。

ているケースもあるため、児童相談所とも状況を踏まえた確認を行いながら保護者に進路の可能性を提示し、判断していただきます。そのうえで通所先となる進路については、学校が中心となりながら実習を行います。子どもによつては卒業後に家庭へ戻ることができず、生活の場を探す必要のあるケースもあるため、通所先と生活の場の検討が同時進行になります。しかし生活場所に関してはグループホームも入所施設も近年空きがない状態なので、早い段階から相談支援事業所や担当区の社会福祉課にも支援会議に入っていたきながら一緒に協議を進めています。

小林…児童部の子が多く通学している浜北特別支援学校は、中学3年生の3学期から実習が始まり、高等部入学と同時に進路に向けた本格的な準備がスタートします。各々理由があつて入所している子ども達の3年後の生活を思い描きながら進路を決めてゆくのは、本人にとつても、ご家族にとつても厳しい事と思いますが、それを支えるのが関係機関の役割と責任になります。しかし、早い時期から協議を重ねても結果的に良い進路に結び付けられなかったり、反対にタイミングが良く繋がったケースもあります。自分の将来に不安を持っている子ども達を振り回すことのないよう取り組んでゆかなければならないと思っています。



話は徐々にヒートアップ 右端:高林さん

高林…なるほど。人生において重要な学齢期の発達支援とメンタルケアをしなが、大人の階段を昇るなかで、本人にとつて、よりマッチした進路先を検討していることがよくわかりました。最後に、これからの児童福祉について熱い思いを聞かせてください。

出水…子ども達や家庭の状況はとても複雑で、施設には多くの役割や責任があります。またその役割を担っている職員の負担も大きいと実感します。制度的にもまだまだ不十分な現状の中で、子ども達のためにもっと関係機関が協力し合える地域を作り、それが具体的改善にもつながってゆく

ちょっと知つとくとお得な福祉豆知識

○福祉型障害児入所施設って？

医療ケアを必要としない障がい児の入所施設。18歳までの児童が対象。近年は虐待やネグレクトなどの要因による社会的養護の役割が強い。

○市内に特別支援学校っていくつあるの？

浜松特別支援学校(知的)、浜北特別支援学校(知的/身体)の他、西部特別支援学校(身体)／浜松聴覚特別支援学校／浜松視覚特別支援学校／天竜特別支援学校(病弱)がある。

○障がいの重い人たちの施設って？

生活施設として福祉型障害児入所施設、障害者支援施設があり、通所施設は生活介護。医療ケアが必要になると、医療型障害児入所施設や療養介護になる。

高林…本日はありがとうございました。障害児福祉の発展、そして子ども達の笑顔のために、益々活躍されることを期待しています。

小林…退所後や将来のことを見据え、自立に向けた支援をすることが私達の仕事の基本です。しかしそれだけではなく、三方原スクエア児童部で少しでも「楽しかったな」、「可愛いがつてもらったな」と子ども達に感じてもらえらるような日々を一緒に過ごしたいです。そしてそういう当たり前に繰り返される日常を大切に思える子ども達と職員、児童部でありたいと思います。

ことを願います。

浜松 nanet

広島被災地ボラ報告

小羊デイクアホーム

施設長 紅谷 純

西日本豪雨支援ネットワーク第5回
災害ボランティア「はままつ nanet」

【支援場所】 広島県呉市、天応地区

【実施日】 平成30年11月22日（木）

25日（日）

【11月23日（金）～24日（土）】

活動場所…広小坪（ひろこつぼ）

集合時間・場所…9時頃に「こつぼふ

れあい広場（旧 呉市立小坪小学校）」

活動内容…土砂出し

【11月25日（日）】

活動場所…天応地区応急仮設住宅内

集合時間・場所…9時頃に仮設住宅内

談話室前（呉市天応大浜3丁目1街区

江田島行きフェリー乗り場付近）

活動内容…仮設住宅内で断熱シート張り。



【ボランティア実施報告】

浜松駅から新幹線にて広島県へ移動。

移動には4時間ちよつとかなかった。広

島駅から山陽本線各駅停車の竹原行に

て移動。

※呉線は豪雨災害の影響で、三原～安

浦駅間の運転を徐行もしくは運転見合

わせをしており、バス代行輸送を行う

時もあるとのこと。私が行った時は徐

行運転だった。

23日9時過ぎると人が集まり「コミ

サポひろしま（各県から現地復興して

いる団体）」という現地のボランティア

ア活動をされている方8～10名程と、

群馬県からボランティアに来ていた8

名とnanet 5名の20名程の人数だっ

た。作業開始前にコミサポ広島代表

から、挨拶と注意事項を聞きながら現

場入りした。コミサポひろしまのメン

バーには、東京・能登・大阪等の出身

の方もおり、この広島で天応地区にて

実際に被災された方もメンバーに入っ

ていた。

23日（金）、24日（土）の2日間、土

砂に埋もれた家屋へ入り分担場所を決

めながら土砂出しと屋外と分かれた。

土砂は粘土質で水分を含んだとても重

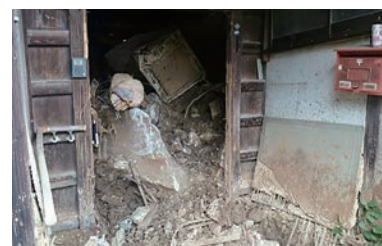
い土であり、土砂を踏みながらかき出

していく作業では、自分の膝下まで土

に埋もれてしまい抜けない程であった。

屋内は流されてきた巨大な石や、木が

窓を突き破って侵入し玄関付近に溜



上段：4か月経っても土砂が放置されたままの
住宅
下段：ボランティアで作業内容を確認しつつ
作業に移る

まっていた。それを撤去することはと

ても難しく数日あっても足りないくら

いであった。土砂出しは1件につき1

週間以上の日数がかかると思われる。

屋外チームは納屋に溜まった土砂をか

き出す作業。かき出していくと家主の

生活用品が次から次へと出てきた。実

際暮らしていた人にとっては、1つ1

つが思い出の品であり大切なものの1

つである。実際、「ゴミ」と言わずに家

財や実物名を使って仕分けしていた。

そこで暮らしていた人の気持ちを考え

ながら作業を進める事を考えた。

土石流発災付近で話をしている時、

下から登ってきた現地住民のおばあさ

んがやってきて、災害時の事を語って

くれた。当時は、玄関から階段を下り

道路に出ようとした時、辺りは目も当
てられない状況になっており、どうす
ることもできず、避難することもでき
なかったと聞いた。被災して数日が経
ち、行政等の手が入らない中で近隣住
民の助け合いが始まり、自分の持っ
ているものを分け与え、他人が持っ
てるものを分けてもらったりの生活だ
った。災害があったことはとても辛
いが、住民同士の繋がりが結果として嬉
しい事となり災害のおかげだともおっ
しゃっていた。



上段：ビニールシートに覆われた住宅
左：断熱材の取り付け作業



3日目は、被災した天応地区に建てられた仮設住宅で断熱シートを貼るボランティアだった。作業当日は気温も高く沢山の汗がでた。広島社協の方が、ボランティアに来る前に予め断熱シートを貼って欲しい方を募集するために訪問して回ったと伺った。はじめ、希望があったご自宅は数件だったが、実際に貼っている所をみて「私の所も貼って欲しい」と希望がでてきて最終的には10棟の要望があった。二部屋の窓ガラス上下を貼り、玄関入口も寒いとのことで内側と外側に断熱シートを貼った。断熱シートを貼っている時に、よくお話ししてくれる方、「近くでお手伝いしたいの!」と言ってくれる方、任せっきりで言葉も交わさない方というんな方がおられた。終了の時間になり最終的に7棟のご自宅しか回れなかった。我々が帰る支度をしていると「終わりのなの?待ってたのに!」とおっしゃられる住人もおり、とても心が痛かった。業者ではないので作業効率も悪く、手順も悪く、準備物も足りない中で反省する事だらけに終わった。

【おわりに】

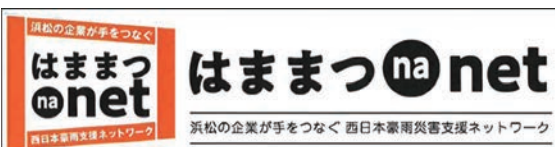
災害ボランティアへ初めて参加したが、何をどうすればいいのかわからないことだらけだった。被災地と聞くだけでイメージはよくなく、現場状況もどうなっているのかと不安にさえ思っ



na net 第5回災害ボラメンバー 右から2番目が紅谷氏

た。広島は豪雨災害ともあり、被災している地域や地区は転々としていた。ボランティアセンターが立ち上がったボランティアを受け入れているところや、全く手つかずの地域もちらほら。土嚢がたくさん積み重なってそのままの光景も目にした。しかし、今回のボランティアではたくさんの経験をさせて頂いた。土砂出しについても作業自体はしんどいが、地域住民の方と話せたことでボランティアに来てくれる方への感謝の気持ちを伺い知ることがで

浜松の企業が手をつなぐ西日本豪雨災害支援ネットワーク



■浜松 na net とは？

これまで各地で災害が起こるたびに、浜松市内の企業がそれぞれに支援活動を行っていましたが、情報を共有したり連携したりすることが少ない現状でした。そこで、西日本豪雨を機会に、浜松市内の企業がつながりながら支援活動をするを目的に、現在支援活動を考えている企業を中心にネットワークを設立していこうと発足しました。

■代表世話人

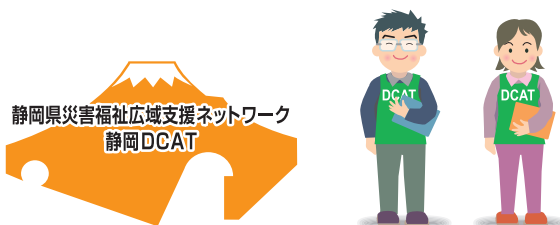
平野 慎太郎（サクラ工業(株)）
柳原 一貫（(株)アウンズ・ヤナギハラ）
長坂 善人（(株)長坂養鶏場）
鈴木 まり子（鈴木まり子ファシリテーター事務所）

■小羊学園は世話人として参画しています

きたことや、現地の生の声、支援の輪の広がりなど、たくさん自分の経験になり感謝している。日本のどこに居ても災害は起こり、自然災害が多い日本では地震、停電、風水害（雷）、火事、火山等に日常から備えることと、人や企業、団体と繋がっておく必要性も実感した。平時からの「備え」についてもっと我々は考えておくことが大切である。社会福祉施設でも、今のままで安心せず命を預かっていることの再認識や必要最低限の生活の保障、それに伴うリスク管理等、災害や防災について意識を高める事は必然的に必要だと感じた。

静岡県災害派遣福祉チーム 静岡DCAT

災害時に避難所や福祉避難所で活動する福祉専門職のチームとして平成29年度に発足しました。西日本豪雨災害時には3クール12名の登録員が避難所での福祉支援に携わりました。県内で190名の登録員がおり、小羊学園でも4名が在籍しています。



法人主任・リーダー研修開催

12月18日につばさ静岡を会場に、小羊学園の各施設の主任・リーダー34名が集い、チームのマネジメント力を高める研修をしました。

午前中は、静岡県立大学短期大学部の鈴木俊文先生を講師にお招きして「チーム・マネジメントリーダーとは」と題しお話をいただきました。組織におけるリーダーの役割や、そのベースにある理念共有の大切さ、リーダーとしてのあり方など、職員とキャッチボールしながら学びました。午後は、主任・リーダーでグループワークを行いました。施設内での事故事例のケースメソッドを通して、施設・チーム・他職種連携・個人に潜んでいる課題を抽出し、その中で課題にどう向き合い解決していけるか意見交換しました。ワーク後、各グループから発表があり、様々な視点で課題を捉え、組織として、またリーダーとして解決策を見いだせていました。

終日、お付き合いくださった鈴木先生は、参加者の発表や意見に常に耳を傾け、頷き同調下さり、発言の良さを褒め、さらに整理して言い換え手法で気づきを与えてくれました。まさにリーダーとしての心構えであり、対人援助に携わる人としての本質を学ばせていただきました。

赤い羽根共同募金 受配報告

生活介護「わたぐも」は、重症心身障害をお持ちの成人を対象としたサービスです。送迎する利用者全ての方が車椅子の利用となり1台に乗車可能な人数が最大3名と限られます。今回助成いただき利用率向上にも繋がり在宅で受け入れ先の無い重症心身障害者の方のより良い支援をする事が可能になりました。

募金をしてくださった多くの皆様の、温かいお気持ちに胸に大切にに使わせていただきます。



受配施設: わたぐも(生活介護事業所)
受配車両: リフト付き福祉車両
助 成 額: 2,325,000円



グループワークは盛り上がる



県立短大 鈴木俊文先生

労働環境や福祉待遇改善策が変わる

働き方改革などの社会情勢を背景に、4月から労働基準法が改正され、有給休暇10日以上付与の従業者には5日以上取得が義務化されます。

また、今年10月からは、介護福祉士や社会福祉士・保育士などの福祉系有資格者で10年以上業務している者に対して新たな処遇改善策が検討され施行される予定です。

ワークライフバランスや、介護職の人材不足・定着、人材育成に国も一定の施策を講じています。

小羊学園を支える会

2018年度 寄付金報告

11月～1月分 7,314,310円 (209件)
累 計 9,641,654円 (308件)

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337



5ページでも紹介した静岡DCATの登録員として私も携わらせていただいている。大規模災害時の応急期に避難所や福祉避難所に赴き、福祉トリアージや避難所環境整備などの福祉支援を実施するチーム。先日、フォロアップ研修に参加させていただき、西日本豪雨で岡山に派遣された登録員の声を聴かせていただいた。実際に派遣された登録員の生の声を聴くと、その大変さを感じるとともに、支援の意義を見つめ直す良い機会となった。また平時の備えや訓練が重要だと感じた。寒暖の差が激しい時期です。日々の体調を整え、実りある日々をお過ごしください。